

宣言したか、尙ほ最近二世紀間に、どうして現在のアフガニスタン國が成立し同時に其の名が此の地方全般に擴がるに至つたか、さういふ事柄を述べる必要もないが、唯一つ玄奘法師の旅行談を讀んで此の點に關して思ひ付く所を言ひ加へてみれば、當時にあつても千年後同様、此の地方全般に互つて、人種、言語、政治などの點では何等の統一もなかつたと云ふことである。北方オクサス (Amou-Daria) 河の左岸は全部トカリスターンに屬し、西部境界地方は波羅斯即ちサッサニド王朝 Sassanides 領ペルシアと區別の付かぬ状態であり、「北部印度」はイラン高原の東側から始まつて居つたものであるが、地理學上から言ふと今でも矢張り同様であつて、序でながら、さういふ地位にあることが新アフガニスタン國が前世紀中、ペルシアに對してはヘラト Herat やセイスタン Seistan を、英領印度に對してはカーブール Kāboul やカンダハル Kandahar を、又ロシアの侵入に對しては最近併合したトルケスタン Turkestan の西北部を、次から次へと防禦しなくてはならなかつたことを或る程度まで説明することが出來ると言はれよう。誠にアフガニスタン山彙の周圍は三大